

地域の話

1月14日は何の日？

**どんど焼き**は、以前は「セーノカミ」と呼ばれた小正月(1月15日)の行事の一つで、お正月の松飾り、注連飾り(しめかざり)、書初めや古いお札・お守りなどを「塞ノ神=道祖神」のところに持ち寄りお炊き上げをすることです。昭和40年代頃までは子供たちが家々をまわり正月の飾りものを集め、その時もらったお賽銭でお菓子などを買いセーノカミの小屋の中で食べたりした子供中心の行事でしたが、今は各地区の自治会(唐木田は唐木田氏子会)が行っています。また、14日は養蚕の神様の日で、米粉で繭に似せた団子(繭玉)を作り、榎の木の枝に刺して座敷に飾りました。このときに繭玉より大きな団子も作り、榎の木の三俣の枝に刺して持ち寄り、どんど焼きの火で焼き、それを交換し合いました。どんど焼きの火に体をあてると体が丈夫になる、焼いた団子を食べると病気をしない、火に書き初めをかざして高く舞いあがると字が上手になると言われています。



繭玉飾り  
写真集「落合の移り変わり」より

冬の寒空に上がる炎、爆じける竹の音、伝わってくる火の暖かさ、赤く照らされた人々の顔、広がる談笑の輪。そしてみんなが帰ったあと、残った火に水をかけ、完全に消えるのを待つ。微かに上がっていた湯気も消えると、寒気が忍び寄ってくる。チョッと昔に帰ったような気持ちになりました。

翌日の朝、残った灰を片付けます。以前はお飾りに付いていた鈴などが燃え残っていたのですが、最近は少なくなりました。みんながお飾りを出すとき、燃えない金属類や燃やせないビニール類を取ってくれているからです。身近な伝統行事をみんなで守っていきたくて考えています。

唐木田地域では、1月14日に二反田公園(中組自治会)、唐木田公園(唐木田自治会)、高岸公園(山王下自治会)で行われました。



どんど焼き  
唐木田公園

からきだ菖蒲館 日曜朝市

からきだ菖蒲館の朝市は、地産地消をモットーに、この3月で100回目を開催することになります。毎月第3日曜日の午前9時から11時、菖蒲館広場において日曜朝市実行委員の運営で開催しています。

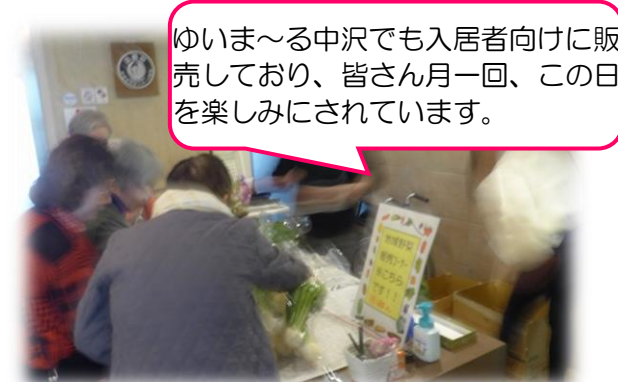
地元生産者の方々から新鮮な野菜や果物、その他農産品(春:筍、秋:稲城の梨・中沢池の栗)市役所裏で採れた米の味噌、原木栽培の椎茸などを出荷頂き、毎回地域のリピーターの方々が開店前からたくさんいらしてくださいます。また、開店に間に合うように朝市実行委員は8時過ぎから陳列などの作業を行っています。毎回、新鮮葉物野菜、果物は15~20分がピークで、ほとんどなくなります。

**【いい品物をいい接客で、売るのではなく  
地域の皆さんが自然と買いに来る】**

楽しい朝市を今後も行ってまいります。



たくさんの方で賑わう日曜朝市。



ゆいま〜る中沢でも入居者向けに販売しており、皆さん月一回、この日を楽しみにされています。

地域の絆をつくる

ほっとネット  
しょうぶ通信

第4号  
令和2年2月発行

発行:ほっとネットしょうぶ  
問合せ:多摩市社会福祉協議会  
まちづくり推進担当  
多摩市関戸4-72 がいがみ7階  
TEL 042-373-5616  
FAX 042-373-6629

みんなで **おむすび** パーティー & 手作り防災 を開催しました!

12月のほっとネットしょうぶでは、鶴牧西公園で収穫されたお米でおむすびパーティーを開催しました。子どもたちからおとしよりまで、様々な年代の方と一緒に作って食べるおむすびは格別でした。

これからも、地域みなさんが集い交流を深められる企画を行ってまいります。ご参加ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。



地元のお米はおいしいね!



おむすびと  
みそ玉づくり

みそ玉は、みそに好きな乾物などをまぜて丸めます。冷凍もできてお湯を注ぐだけで朝食やお弁当、非常食にもなり便利です。



新聞紙で  
紙スリッパ作り  
防災用品見学

停電の時はどんな明かりが必要かな?



唐木田駅前駐在所菅谷さんのお話より

皆さん、寝室にはき物を用意していますか?想像してください。深夜に震災が発生した場合、電気が消え足元にはガラスなどの破片が散乱している所を抜けて避難しなくてはなりません。そこで今、できることから始めてみましょう。

**\*小学生のみなさんにお巡りさんからの宿題です!**

本日は行った、食器を汚さないで出来るおむすび作りやみそ玉作り、簡易にできる紙スリッパを覚えて帰って、スリッパを家族分用意して寝室に置いておきましょう。震災が発生した時、大人たちは避難所作りや高齢者の方のお手伝いなどで忙しくなりますので、小学生のみなさんでもできることから始めていきましょう。

実施協力:唐木田児童館・株式会社 嶋屋・大妻女子大学・NPO 法人シェアマインド



## 鶴牧西公園の田んぼを知っていますか？



おむすびパーティーのお米を寄贈いただいた愛耕会（中組自治会・中組青葉会の有志による組織）の沿線について、中組青葉会 会長 河本博治さんにお話を伺いました。

鶴牧西公園には、永い間、休耕田となっていた3枚の田んぼがありました。平成27年春、多摩市公園緑地課より「里山の名残り風景を残したい」と自治会へ稲作再開に向けた協力要請があり、これを受けて岸農園の指導のもと、初年度は試行的に1枚の田んぼにもち米を植え付けました。



2年目の平成28年から、3枚の田んぼにもち米2枚うるち米1枚を植え付け、秋にはもち米60kg、うるち米30kgを収穫しました。平成29年、自治会と青葉会の有志10名余で“愛耕会”を結成。大松台小学校5年生の生徒80名余りが参加し、田植えや稲刈りの指導を行い、農業体験学習を行っています。収穫したお米は、毎年唐木田児童館のもちつきやからきだ菖蒲館の高齢者食事会に寄贈し美味しいと喜ばれています。中組青葉会では、赤飯やカレーライス等を作り懇親を深めています。

### 唐木田児童館では



地域交流事業として鶴牧西公園で収穫したもち米を使って「おもちつき」を行っています。おもちをついたり丸めたりするのも、地域の皆さんにご協力いただいています。毎年「おもちつき」は家族での参加が多く、つくたてのおもちや豚汁を食べながら幅広い世代が交流できる場となっています。また、おもちつきで使う食材の一部には東北地方の食材を使用し、東日本大震災の被災地を応援しています。

（唐木田児童館 三枝館長より）

### 大妻女子大学 多摩さくら坂

### イベントのお知らせ

大妻の桜をいっしょに楽しみませんか？



日時 3月28日(土)・29日(日) 10:00~14:00 (最終受付 13:30)

場所 大妻女子大学 多摩キャンパス

昨年に引き続きキャンパス内約1kmの桜並木を一般公開します。自由に散策をお楽しみください。

休憩場所あり。車いす等の入場・ペット同伴可。飲食の販売はありません。(アルコール持ち込み不可)

協力：ほっとネットしょうぶ・多摩市社会福祉協議会

問合せ：大妻女子大学多摩キャンパス地域連携推進室 ☎042-372-9124

### \*ボランティア募集！

受付や誘導などを手伝ってくれる方を募集しています。一緒に地域の活動に参加してみませんか。

問合せ：多摩市社会福祉協議会 まちづくり推進担当 ☎042-373-5616

### ほっとネットしょうぶとは…（唐木田・中沢・山王下等地区地域福祉推進委員会）

唐木田・中沢・山王下・鶴牧1・2・6・落合1丁目にお住いの方や地域で活動する団体・専門機関等を含めた横のつながりを作り、コミュニティづくりや地域課題の解決に向けた取り組みを行うためからきだ菖蒲館にて隔月で委員会活動を行っています。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

## ～過去の災害から学ぶ～ 地域防災講座

10月に開催の第4回ほっとネットしょうぶでは、大妻女子大学共生社会文化研究所の協力により地域防災講座を開催しました。

### 第1部：講演会

### 「被災地の過去と未来 17歳が見た震災」



東日本大震災当時、志津川高校2年生だった佐藤慶治さん。社会教育施設にいて難を逃れたものの、高校生と教職員で避難してきた方々の対応をすることになり、避難所という限界状態の中で、想像と知恵を働かせて活動した貴重なお話でした。

まちへの愛着が復興のエネルギーになっています。

### 第2部：STEP（避難所運営シュミレーション）

震度7の地震発生後、避難所となる小学校に住民が集まり避難所本部の運営を頼まれたという想定で、発災2時間後から当日の夜までの間に次々と起こる出来事に対し、本部としての行動を決定するため、グループに分かれ、みんなで意見を出し合い対応策をまとめていきました。



（参加者の方からの感想）

実際の避難所でも様々な問題を同時処理しなければならず、即時判断が必要なことが理解できました。避難所運営のお手伝いができるよう、まずは自分や家族の命を守り火災を防止するなど、自宅防災が必要です。

大災害時は、隣単位・廊下単位・階段単位で助け合う体制づくりが必要と考えました。



このたびは、地域防災講座にご参加いただきありがとうございました。2011年に起きた東日本大震災から9年が過ぎようとしていますが、佐藤さんの講演では、当時の被災地での様子や被災者でありながらも自ら避難所でサポートする側として関わった体験を伺う、貴重な機会となりました。と同時に、私たちの当時の記憶や体験をも思い起こすきっかけになったのではないのでしょうか。

続いて実施したSTEPでは、次々と起こる想定外の出来事にどのように対応していくのかについて、避難所運営の図上訓練に取り組んでいただきました。皆さんひとりひとりが災害時だけでなく、日頃からの「共助」を自分ごととして考え、行動するきっかけになっていただければ幸いです。

大妻女子大学 人間関係学部 堀 洋元 先生より